

〔技術のページ〕

市場価値の高い子牛作りをがんばろう！！

子牛市場における体測値からわかる岡山和牛子牛の現状

岡山県総合畜産センター 和牛改良部
研究員 瀬尾 聡一

最近の飼料や生産資材費の高騰により、畜産農家の経営状況は大変厳しく、特に肥育素牛としての子牛価格は本年に入り急激に下落しており、繁殖農家にとっては一層厳しさを増しています。この時期だからこそ、発育良好で、粗飼料をしっかりと食い込み、腹の良く出来た子牛作りを心がけ、購買者ニーズに応える努力が大切です。

市場価値の高い子牛作りの参考として、現在子牛市場で行っている体測値から、上場子牛の発育的特徴などの現状について、総合畜産センターのこれまでの調査結果をご紹介します。

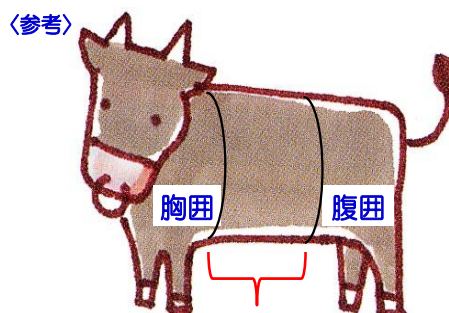
1. 目安となる発育条件

お示しする体測データは、今年の5月及び6月の全農久世家畜市場での子牛市場で調査したものです。全農岡山県本部では、肥育農家の購買意欲の向上を目指して、『おかやま四つ☆子牛』の表示販売を開始します（8月市場から）。その選定基準は表1のとおりで、今回はこの基準を元に体測値を検討しました。

(1) 対象日齢	雌: 240日以上～280日未満 去勢: 220日以上～270日未満
(2) 体高条件	(1)の条件を満たし 雌: 全国和牛登録協会発育基準 平均+標準偏差1.0σ以上 (平均:0σ) 去勢: "
(3) 胸囲腹囲差	(2)の条件を満たし 胸囲-腹囲の差 雌: 25cm以上 去勢: "
(4) 過肥でないこと	
(5) 著しい瑕疵・損傷のないもの	

表1 優良発育子牛の選定基準（全農岡山県本部策定）

※8月市場からは、条件として、胸囲 1.0σ 以上を加え、

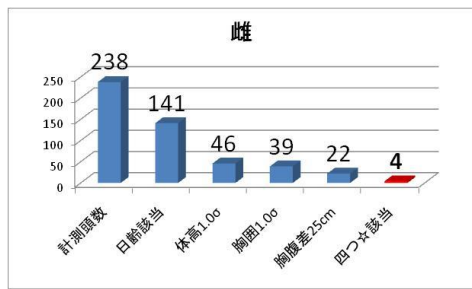


差が25cm以上
優良発育子牛とする
(8月からは22cm)

かつ胸囲と腹囲の差について、25cm から 22cm へ基準を改定予定。

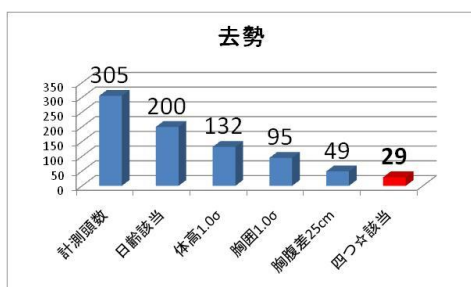
2. 上場子牛の発育状況

体測の結果を元に、まず各選定基準ごとに条件をクリアした頭数および割合を図1（雌）、及び図2（去勢）に示しました。一番右が、最終的に全条件をクリアした「四つ☆子牛」になります。



雌	計測頭数	日齢該当	体高1.0σ	胸囲1.0σ	胸腹差25cm	四つ☆該当
%		59.2%	19.3%	16.4%	9.2%	1.7%

図1 雌子牛の条件ごとの頭数



去勢	計測頭数	日齢該当	体高1.0σ	胸囲1.0σ	胸腹差25cm	四つ☆該当
%		65.6%	43.3%	31.1%	16.1%	9.5%

図2 去勢子牛の条件ごとの頭数

体測の結果、体高 1.0σ 以上と良好な発育のものは、雌で 238 頭中 46 頭、19.3%、去勢で 305 頭中 132 頭、43.3%で、最終的に栄養度、瑕疵の条件までクリアした「四つ☆子牛」は、雌でわずか 4 頭、1.7%、去勢で 29 頭、9.5%という結果でした。

また参考に、体高のみの発育の分布状況を示したのが図3、図4のグラフです。濃い菱形で表したのが、全ての条件をクリアした優良子牛です。(雌 4 頭、去勢 29 頭)

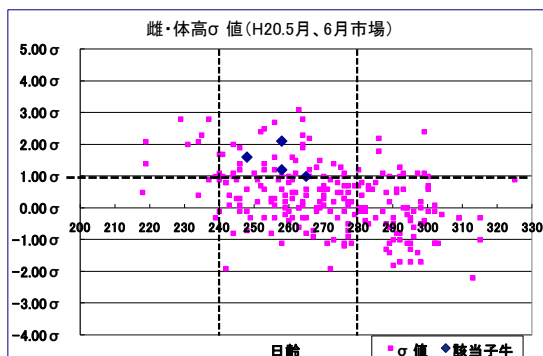


図3 体高発育値の分布 (雌)

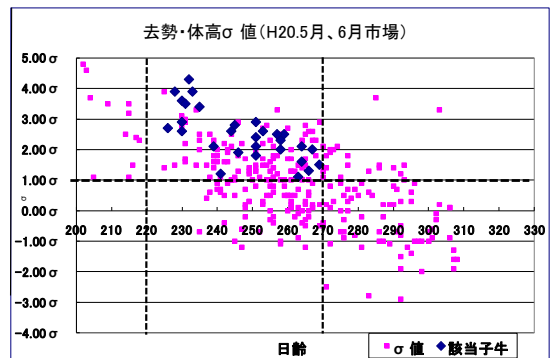


図4 体高発育値の分布 (去勢)

3. 体測結果から見えること

最近上場された子牛では、特に雌子牛は、「四つ☆子牛」の条件をクリアした子牛が2市場でわずか4頭、1.7%であったことが示すとおり、発育面で体高も腹も全体的に良くない傾向を示していました。雌子牛の場合、胸囲腹囲差のみならず体高だけを見ても、図3、4のとおり、去勢子牛が1.0σ以上の発育が多いのに対し、雌子牛は1.0σのラインより下に多く分布をしていました。雌子牛の安値にさらに追い打ちをかけている状況が示唆されました。

また、雌・去勢共に言えますが、胸囲腹囲差が25cm以上あり、条件をクリアしているにもかかわらず、あまりの過肥により該当から外れる子牛が大変多く見られました。

実際に6月市場で「四つ☆子牛」(去勢:22頭、雌:該当無し)は、去勢で平均に比べ約6万円高値で取引されていたことから、価格回復に向け、特に雌子牛の発育改善と腹作りが今後重要であり、群飼育の場合に去勢子牛と雌子牛を必ず別飼いにするなど、各農家段階での工夫が必要と思われます。また過肥についても、子牛といえども栄養状態の観察をこまめに行い、粗飼料をより多く与え、腹作り主眼の飼育方法への切り替えが重要と思われました。

今後も評判良い子牛作り、市場活性化に貢献すべく、様々なデータ分析をできるだけわかりやすく皆さんにお伝えしていきたいと思えます。

